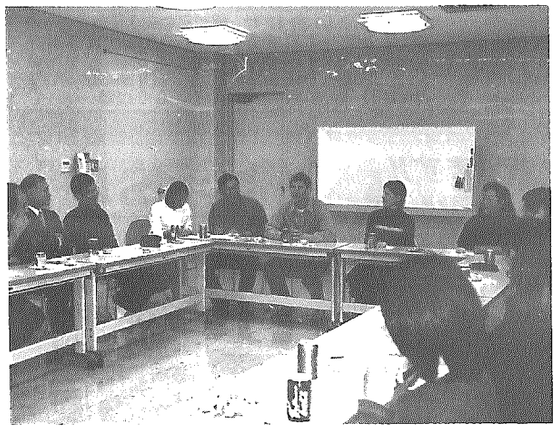

横越国際交流協会の主催で ウィリアム・ロス・デイビスさん歓迎会

10月25日、今年８月から外国語指導助手として赴任したウィリアム・ロス・デイビスさんの歓迎会が、よこごし国際交流協会の主催により総合体育館で開催されました。

ロスさんをよく知ってもらおうと開かれた歓迎会には、協会の会員をはじめ、近隣市町村の外国語指導助手、国際交流に関心のある方など20名が参加。最初に参加者全員が自己紹介をした後、英語の授業、生徒たちとのふれあいなどについて、横越中学校や他の中学校の現状を話し合いました。

ロスさんは、授業だけでなく、休み時間などにも生徒たちと交流を深めているそうで、「単に英語を学ぶのではなくて、視野を広げ、知る喜びを感じることのできる授業を心がけたい」と意気込みを語っていました。

地域と行政との意思疎通を図ろうと 東町で町政懇談会

10月28日、東町会館で町政懇談会が開催されました。

町政懇談会は、地域の皆さんから町政に対する意見や要望を聞き、地域と行政との意思疎通を図ろうと開催されているもので、懇談会には、町長ほか各担当課長が出席、地元から区長さんはじめ地域の方々およそ40名が出席し、次のような課題について意見が交わされました。

- 市町村合併
- 中学校の改築
- 子どもセンターと教員住宅の関係
- 地域公民館の活性化
- 住宅団地の下水溝の整備
- 阿賀野川堤防に通じる農道整備

青少年の健全育成のあり方を話し合う 第３回町教育シンポジウム

11月10日、サンウィング横越を会場に、青少年の健全育成のあり方を話し合う第３回横越町教育シンポジウムが開催され、小中学校の教職員、保護者、地域公民館、育成会の役員など80名が参加しました。

今回は、「学校がよくなる。教育が変わる。さあ、私たちはどうする」がテーマ。午前中、「教育改革と学校・家庭・地域・行政の役割と連携をどうすればよいか」と題して、県青少年育成県民会議の佐藤貞正会長から講演があった後、４つの分科会に分かれて話し合いが行われました。午後からはパネルディスカッションが行われ、来年度から実施される完全学校週５日制導入に向けた学校・家庭の対応、子どもたちの過ごし方などについて、真剣に議論が交わされました。

冬の到来を間近に迎え シルバー人材センター　冬囲い講習会開催

11月12日、町シルバー人材センターの主催により、高齢者を対象とした冬囲い講習会が、老人福祉センターで開催されました。この講習会は、会員たちの技術・知識の向上を目的に毎年この時期に行われているものです。

約60名の参加者たちは、縄の結び方などを室内で１時間半ほど練習した後、老人福祉センターの中庭に植えられている松の木を題材に、三条市保内造園組合の講師から指導を受けながら、熱心に冬囲いを実践していました。

シルバー人材センターでは、庭木のせん定、ふすまや障子張り替え、清掃など、皆さんからのお仕事の依頼をお待ちしています。

問い合わせ　シルバー人材センター
☎385－5211（サンウイング横越内）

力強い合唱発表と作品の数々展示 横越中学校で文化祭

10月28日、「光り輝け 文化の心　刻みこもう みんなの心へ」をスローガンに、中学校で文化祭が開催されました。

それぞれの教室では、デザイン画や習字、手工芸など、授業やクラブ活動で一生懸命取り組んできた生徒たちの作品の数々が展示されました。

また、午前に行われた合唱コンクールでは、はじめに全校生徒430名による合唱２曲が力強く発表され、続いて各クラスごとにステージに上がり、学年課題曲と自由曲の合唱を、生徒、先生、保護者の方々を前に披露。体育館いっぱいに歌声が響き渡り、大きな拍手が生徒たちに送られていました。午後には、吹奏楽部による演奏、生徒有志による演劇も披露。文化の香りただよう１日でした。

児童たちの力作がズラリ！ 横越小学校で文化祭開催

10月28日、小学校で文化祭が開催されました。

各教室には、絵画、作文、紙で作った帽子、ビニール袋で作った服、木製の本立て、おかしの箱などで作ったおもちゃなどの授業で作った作品のほか、プラモデルやクッションといったクラブ作品、虫や貝殻の標本などの科学作品がずらりと並び、子どもたちは、学校中の作品を見て回り、良いところを探して感想を書いていました。また、家族や地域の方々も多数訪れて、個性あふれる作品を鑑賞していました。

さらに、写真や書道などのＰＴＡ作品、飛距離を競う紙飛行機競技、ダンス大会、チューリップの球根の販売なども行われ、文化祭を楽しんでいました。

近代の歴史を振り返る 横越の三偉人展開催

今年は合村100周年ということで、11月１・３・４日の３日間、横越の三偉人展が開催されました。1日は役場３階の議場前、３・４日は中央公民館の文化祭特別展会場で展示されました。

横越の三偉人とは、小林存（民俗学者）・建部遯吾（日本社会学者）・村手範（元横越小学校長）の３人を指しています。３人は明治から昭和にかけて、それぞれの分野で偉大な功績を残しました。

この展示は、過去に「教育村」と呼ばれた当町の経緯をたどり、誇れる横越町を再認識してもらおうと町が開催したものです。若年層は三偉人を知らない人も多く、今回の展示で功績や書などを見て感心していました。

姉妹村との交流を深めた2日間 みほ産業文化フェスティバルへ参加

11月１日から17日まで、姉妹村の茨城県美浦村で、第24回みほ産業文化フェスティバルが開催され、期間中、芸能発表会や音楽フェスティバル、マジックショーなど様々な催しが行われ、大変な賑わいとなりました。

３日には、当町から農政商工課長をはじめJA亀田郷みなみや商工会、沢海園芸生産出荷組合等の生産団体の総勢23名が参加。横越町の販売コーナーには販売前より当町の特産品を求めにこられた方々による長蛇の列ができ、持参した野菜、梨、チューリップの球根、農産物加工品、鮭の味噌漬けの売れ行きは良く、大盛況となりました。

また、前日の２日には、美浦村のみなさんからの手厚い歓迎会を催していただくなど、姉妹村の交流を深めることができた２日間となりました。